

だん とぴっくす



まちの話題や出来事を紹介します



▲県松江家畜衛生部矢田部長（左）と榎所長。

おい 安来の和牛が美味しまね認証

安全な農林水産物を消費者に届けることで、信頼の確保と販売の拡大につなげることを目的とする県の美味しまね認証制度。この程、島根県農業協同組合やすぎ地区本部肥育センターの和牛が認証を取得しました。同センターでは、認証取得に向け、昨年から衛生面での管理強化やホームページで消費者へ情報提供をするなどの取り組みを行ってきました。

同センターの榎伸也所長は「安心安全の意識を高めて、安来の牛が評価してもらえるよう今後も努力していきたいです」と話していました。



コミュニケーション能力を伸ばしたいと赤江小学校では、体育の授業で社交ダンスを採用。相手を思いやるダンスは皆を笑顔にしています（1月25日）

今月の一枚



▲三重塔に向けて放水訓練を行う清水自衛消防団。

文化財を守れ！清水寺で訓練

多くの文化財がある古刹清水寺で1月25日、清水自衛消防団が放水訓練を行いました。同消防団は寺や旅館、店舗関係者で組織。副団長の青山欣司さんは「定期的にポンプなどを点検していますが、今後は点検頻度を増やすなど、いざというときにスムーズに消火ができるようにしていきたい」と話していました。

法隆寺の火災を機に1月26日は文化財防火デーに制定。空気が乾燥するこの時期に市内でも関係者が集まり、訓練や防火設備の点検を行っています。

記事の画像をフェイスブックで紹介



このマークの記事は、トピックの関連写真を「安来市公式フェイスブック (FB)」で公開しています。

取材では何十枚もの写真を撮りますが、記事に使用するのは1～2枚です。FBでは、紙面で紹介できなかった写真を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

右のQRコードは「安来市公式FB」のトップページを表示することができます。



※広報やすぎ2月号11ページの記事で、表彰を受けた団体を赤江 Jr. ブラスバンドとしていましたが、正しくは「やすぎ Jr. ブラスバンド」です。お詫びして訂正します。



◀身近な素材で高さ約10cmのひな人形を作りました。

身近な素材でひな人形づくり

1月13日に市立図書館でひとあし早いミニひな人形作り体験が行われ、親子など約30人が参加しました。指導するのは創作人形作家佐伯彩里さん(飯生町)。端切れや百円ショップの商品などで用意した約30個の部品を組み合わせて、高さ約10cmのひな人形を作っていきます。

お母さんと参加した渡部優花さん(小学2年生)は「着物をきれいに重ねるのが難しかったです。下地が見えないよう髪が広がるように気を付けました。自分の机に飾りたい」と話してくれました。

先輩から仕事のアドバイス

今春、就職する高校生を対象にした就職内定者合同研修が2月1日、学習訓練センターで開催されました。2校から59人が参加。ビジネスマナーや安来市の地域学などを学びました。

一年前に就職した先輩社員2人からは、就職して困ったこと、オフの過ごし方、ミスを恐れずに仕事をするなど、^{はやと}実際の経験をもとにアドバイス。安来高校の本池 隼 飛さんは「与えられた仕事に責任を感じながら取り組まなければならないことが分かりました」と話してくれました。



◀先輩からの発表を聞く参加者。

安来駅出迎え隊が豆まき

日頃からの利用客に感謝の思いを伝え、福をもたらそうと2月3日、観光交流プラザで「節分まつり」が行われました。豆まきは「青空朝市だんだん」の開催500回と「安来駅どじょう掬い出迎え隊」の結成1周年を祝って企画。どじょうすくい衣装で出迎え隊が来場者に豆菓子を配りました。

安来市観光協会の飯橋一春会長は「最近、外国人をはじめ、プラザの利用者は増えています。今後もこのような催しで多くの人に利用してもらいたい」と話していました。



▲豆菓子をまくどじょう掬い出迎え隊の皆さん。



▲ハチマキと前掛けを付けて本格的に行いました。

銭太鼓を世界に広める

島根県や日本の文化をブラジルで受け継ぐため、イベントや交流会を行っている在ブラジル島根県人会。同会青年部員の2人が安来市を訪れ、1月17日・18日・21日に安来中央交流センターで銭太鼓体験を行いました。

来市したのは、クニタケ・ビニシウス・ハルオさんとシノハラ・レチシア・ミユキさん。安来節家元四代目の渡部お糸さんから銭太鼓の動作やリズムを習い、基礎から応用までを身につけました。

ハルオさんは「ブラジルに帰って習ったことを伝えていきたい」と話していました。